

## GNOMES



2月になり、いろいろなものが煮詰まり、差し迫り、切羽詰って追い詰められてきている中で、相変わらず淡々と働いています。先月は、建設物価の原稿に公園の植栽について描かせてもらって1年になった。あともう少しやれるそう。農業の将来像も、なるべく地域内であらゆるものが何度も循環するようにすれば、自然に収まるところに収まってきそう。こんなことをやっていると土木の仕事が壊滅的になくなったせいで、おかげでたくさんのが出来たが、それ以外のことが出来なくなった。もう少し努力をする必要はあるが、いくつかのことが出来ればそれでいい。欲はかきすぎないことだろう。

今日は自転車で穏やかな風の中を走りながらカトマンズのホテルの夜を思い出していた、あの夜部屋でいつものように飲みながらみんな勝手なことを話していた。ベッドの上では何人かが笑い転げ、鏡の下では枕を抱いて居眠りをしていたり、好きなところで車座になって酒ビンが回った。日本人ネパール人、モンゴル人、ブータン人がみんな勝手なことに熱弁をふるっていた。横笛を吹く男やよるめく足で踊りだす男や女、今の気持ちを歌にしてはやされながら歌う女と男。そんなときに外が騒がしいことに気付いたのが「様子を見てきます。」と出て、しばらくしたら、出るときと同じようにそーっと帰ってきて「あの、火事です。上の階が燃えています。なんだかすごいことになってます。」と言ってきた。そのとき、まったく逃げたくなかったものだから、とりあえず若手が数人出ていたのが手伝いに走り、危険になったら連絡に来るといことなので、そのまま宴会続行とした。外には消防車、廊下にはホースが走り、客は非難してロビーでごった返し、各国語が混ざり合った大騒ぎで、元気の良いガイドはカウンターの上にはだして飛び乗って、お客さんに静まるように大声で呼びかけ、大変な働きだったと翌日身振り手振りで教えてもらった。しかし、こちらは相変わらずみんなで熱中して語り合い笑いあっていた。時々煤で真っ黒になった元気なのが飛び込んできたが一杯飲んでまた出撃していった。

あの時、万一の時はいしょがないかと思っていた気がする。気持ちの良い夜を選んだのだから、そーいう終わり方もいいではないか。背中に火を担ぎながら、一人も欠けずにいつものように穏やかに過ごしていた友人達の立ち居振る舞いをまぶしい想いで思い出した。あんなことでバタバタ走り回りたくない。何も変わらないのだ。みんな心の中で天秤を見つめてあの日の夜はふけていった。

そう、いくつかのことが出来ればそれでいい。あとは穏やかに生きるべきなのだ。追い詰められたらビールの栓を抜いてほっと全身の力を抜くべきなのだ。そしてゆっくり立ち上がればいいのだと思っている。そんなことを考えながら気持ちよく自転車は隅田川を渡った。GNOMES

3月の「まなざし」の編集は20日におこないます。手伝いのかたはよろしくお願ひいたします。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03-5600-0195

高村 哲

GnomesJpn@aol.com